

政党への公開質問状の発表
WEB懇談開催 3面

全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連
〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月20日 定価 30円
https://www.zenkouro.org/

川柳
全厚労女性
委員会賞

届けたい マスクのしたのスマイルを

雅号 ぶー子 (秋田)

2面
大会、今年もWEBで

いのちまもる政治へ 転換のチャンス

選挙に行こう
キャンペーン
第1弾



徳厚労定期大会と9・5いのちまもる徳島県学習決起集会でのプラカードアピール

総選挙は必ず年内に行われます。歴史を見ても政権が変わることで、診療報酬プラス改定や、社会保障費の拡充が行われています。政府・与党はコロナ禍以前から医療費抑制策や公立・公的病院の再編統合によるベッド数減らしを行い、安心・安全の医療・介護をな

いがしろにしてきました。コロナ禍で厚生連病院はもとより全国の医療・介護現場は受診控えなどで補助金頼りの経営となり、そのしわ寄せは現場で働く医療労働者に来ています。夜勤日数や時間外労働の増加、コロナにかかるとはいけないという心理的負担に加え、行動制限でリフレッシュが

できないなど、心身は限界です。一人ひとりが私たちの生活と切り離すことのできない政治に関心をもち、より多くの人が選挙に行き

投票することによって必ず政治は変わります。今、政治を変える最大のチャンスです。

前号3面で紹介した「医療・介護・保健所の削減やめて！いのちまもる緊急行動」が全国各地で取り組まれています。9月5日には「全国一斉蜂起0905」が行われ、少なくとも36都道府県119地方で一斉に行動を実施。ハッシュタグ「#国会ひらき医療崩壊を

防げ」「#医療・介護・保健所を本気で充実させる全国一斉蜂起0905」などTwitterデモも行われました。

全厚労加盟組織もそれぞれの県の取り組みに合流しました。徳厚労は9月4日に行われた定期大会でプラ

カードを作成し撮影。翌日5日開催の徳島県医労連主催「9・5いのちまもる徳島県学習決起集会」に結果しました。

集会では全厚労でもおなじみのNPO法人医療制度研究会副理事長で外科医の本田宏先生による「日本の医療崩壊をくい止める！コロナ禍の医療現場からの警鐘」と題した講演も行われました。講演の様子は徳島県医労連のYouTubeで視聴できます。(QRコード参照)

また、同日夕方には全厚連青年部が「いのちまもる緊急行動プレ企画」を開催、ここでも本田先生が講演を行い、日本の医師不足や地域格差、医療提供体制の脆弱性には、政府・与党がコロナ禍でも押し進める医療費抑制策が根底にあること

を訴え、「政治を変えること」の重要性を学ぶことができました。

徳島：Twitterデモで動画を拡散、広島県医労連などのアカウントから見れます

高知：高知市内の宣伝が地元紙に掲載

愛知：国会議員もかけつけ共に行動

北海道：札幌・旭川・釧路でアピール行動

秋田：45分で200組のピラとティッシュを配布

福島：県内4地域で大規模PCR検査実施を呼びかけ

東京：上野・立川でアピール約100人参加

長野：県内9カ所でスタンディング

徳厚労定期大会と9・5いのちまもる徳島県学習決起集会でのプラカードアピール

徳厚労定期大会と9・5いのちまもる徳島県学習決起集会でのプラカードアピール

9・5いのちまもる徳島県学習決起集会

【講演前半】

1. 日本の医療体制の現実
2. なぜ日本の医療が崩壊したのか

【講演後半】

3. 公立公的病院再編統合問題
4. 医療再生の処方せん

第69回定期大会

今年も完全オンラインで開催となりましたが… 制限中でも様々な活動が出来た1年でした

9月10日、全厚労は第69回定期大会を前大会に引き続き、ZOOMによる完全オンライン形式で開催。代議員66名(委任15名)の他、役員・事務局等で計102名が参加し、コロナ禍が続く中で1年間の活動総括と21年度方針を確認しました。直接集まらない状況が続く中で、専門部の活動では、webで出来る工夫がなされ、活動紹介もパワポや動画で報告。またオンラインを逆手に普段、大会で会う機会のない全農協労連から、来賓あいさつを受けました。

大会発言では、事前に文書発言で10本が寄せられ、当日4県(福島、茨城、広島、高知)と5つの専門部からコロナで苦勞しながらの経験が話されました。

大会のまとめでは、①労働組合の任務である要求実現のために、②職場討議や調査活動を積極的に、③知

松尾書記長は活動の総括として、全厚労の「生活と医療と平和を守る」スローガンに則って、労働者と地域医療を守るため、①年間一時金の確保や働く者の権利向上、②公的医療機関を守るための公的支援を求め、③webを活用した各専門部での積極的な取り組みや独自グッズ作成など、みんなで知恵を出し合いながら、進めてきたことを強調しました。

特に衆議院議員を対象にした「公的支援を求める要請」には、要請した144名の議員のうち、49名から賛同や激励メッセージを受け、直接の懇談でも、今後に繋がる貴重な成果が得られたとして、引き続き、議員や政党を通じた医療制度・政策への働きかけの重要性を強調しました。

調査活動を積極的に、③知って知らせて組織する」活動に工夫して取り組み、④組織拡大・強化を進めて、⑤政治を転換し、医療・社会保障制度を改善・充実させようと呼びかけました。

第1号議案(総括・方針)では、反対・保留もなく成立、第2号議案(予算)では、熊総労の登録数が未定での提案になっていることへの意見が出され、保留4の賛成多数で可決。次回は、全国から一箇所に集まり、直接対面で交流しあえることを願って「団結ガンバロー」で閉会しました。



画面に映りきらない参加者も含め「団結」を固めました

全厚労ホームページがリニューアル スマホでも読みやすくなりました

職場・地域での協力をさらに広げて



来賓 館野豊・全農協労連書記長

お招き頂きありがとうございます。20年度は食料、農業、地域を守る活動として、岩本委員長に参加してもらいました。その時、委員長が話された「厚生連病院の強みはどこにあるのか」という訴えに共感しました。「みんなが一人のため、一人がみんなのために」という協同の精神は、いまでも生きています。同じ協同組合に働く者として、食と健康、地域を守るため、儲け本位の企業参入を止めさせ、安全・安心で住み続けられる地域を作るために、これからも一緒に取り組みましょう。

各県青年紹介

青年

医療研

2021年 1000~1600
Zoom ミーティング
11月14日

第38回 医療研究集会

分科会リレー報告

平和

専門部では工夫を凝らしパワポ、動画で報告も

2021年度 全厚労役員

- 中央執行委員長 岩本 一宏(広島・再)
- 中央副執行委員長 中村 悟(秋田・再)
- 花澤 直樹(長野・再)
- 西田 知弘(岐阜・再)
- 大栗 陽(徳島・再)
- 書記長 松尾 晃(本部・再)
- 書記次長 岡野 学(本部・再)
- 中央執行委員 下保 誠史(北海道・再)
- 島 輝義(秋田・再)
- 佐々木 崇(福島・新)
- 和田 祐輔(新潟・再)
- 浦田 孝之(富山・新)
- 高橋 だし(長野・再)
- 宇留野 正志(茨城・再)
- 岡部 義秀(神奈川・再)
- 天野 雅史(静岡・新)
- 中央執行委員 荒川 博昭(愛知・再)
- 田口 学(岐阜・元)
- 小椋 瑞樹(三重・再)
- 高本 奉彦(広島・再)
- 松田 純一(山口・再)
- 川田 祐生(香川・再)
- 島山 宗(徳島・再)
- 由比 智一(高知・再)
- 中野 綾(大分・再)
- 会計監査 橘 優人(富山・新)
- 関原 宏幸(長野・再)
- 稲葉 功(静岡・新)

退任された役員

- 中央執行委員 齋藤 文子(福島)
- 島山 浩一(富山)
- 阿部 恵美(熊総)
- 望月 有美(静岡)
- 会計監査 大崎 泰信(富山)
- 浅野 彰大(愛知)

大会役員

- 議長 大平 雅浩(新潟)
- 議事運営委員会 大友 浩介(福島)
- ★吉井 京湖(茨城)
- 山内 明子(静岡)
- 友枝 諭志(香川)
- 岡野 学(中執)
- 選挙管理委員会 石川 達紀(富山)
- ★畔上 稔男(長野)
- 大会事務局 金井 公予(愛知)
- 万里 昌美(徳島)
- 大会書記 茂原 宗一(長野)
- 金本亜矢子(広島)
- 【次期選挙管理委員】 三北・北海道
- 関信・茨城
- 東海・静岡
- 西日本・徳島
- ★印は委員長

いよいよ、総選挙！ 私たちの願い 一票に込めて

全厚労の質問に政党が回答 その中身

全厚労は2017年秋の総選挙から、主要政党への「公開質問状」の取り組みを始めました。昨年9月に菅政権が誕生し、解散・総選挙も近いと判断して、10月に当時の主要8政党へ「農村地域の医療・社会保障政策」について、質問（囲み参照）を行いました。昨年、日本共産党とれいわ新選組とは、web懇談を行い、その後、回答書が寄せられました。公開が遅れましたが、今回、紙面にて発表します。その他の政党についても再度要請し、回答が寄せられた場合には次号で掲載します。

- ### 公開質問状の内容（概要）
1. 感染症対策も含めて「都市集中型社会」を改め、地方の人口を増やすため、医療・社会保障の生活インフラを整備することについて、どう考えるか。
 2. 公的医療機関としての厚生連病院の役割についてどう考えるか。
 3. 「不採算医療」を担う公立公的病院が安定して運営できる診療報酬制度改定へ、どう考えるか。
 4. 農協法規制について、農協機関にのみ適用される「固定比率」、「員外利用率」をどう考えるか。

も浮き彫りとなっており、医療従事者の不足は、そのあらわれにほかなりません。目前のコロナ禍から命・健康・くらしを守るためにも、コロナ危機後により良い未来を切り拓くためにも、国策の抜本的な転換が必要です。日本共産党は、「自然増抑制」の名で社会保障費を削り続ける政策を根本的にあらため、社会保障の拡充に舵を切ること提案しています。医療・介護の基盤を再構築するため、▽医師・看護師・介護職員の計画的増員、▽医療従事者の労働条件にかかわる診療報酬の抜本的増額、▽地域医療を担う医療機関への公的支援の強化、▽介護報酬の大幅な引き上げ、▽介護職員の国費による賃金アップと労働条件の改善——などを進めます。財源は、消費税に頼るのでなく、富裕層・大企業への優遇をやめて応分の負担を求める税制の改革、軍事費や大型開発などの浪費をなくす歳入の改革で確保します。

（以下略）
全文はQRを参照

「れいわ新選組（20年11月13日）」
地方創生が実現するためには、それぞれの地域・地方に人々が生活していくために必要な水道、電気、ガス、学校、病院、介護施設などの公的インフラが完備されていることが必須であると考えます。政府は地方創生をうたう一方で、地域の公的医療機関の機能別の統合を行うリストラ策を断行しようとしています。公的病院は地域の拠点病院としての役割を果たしており、機能分化ではなくオールインワンの役割が求められると考えます。

（回答1）
地方創生が実現するためには、それぞれの地域・地方に人々が生活していくために必要な水道、電気、ガス、学校、病院、介護施設などの公的インフラが完備されていることが必須であると考えます。政府は地方創生をうたう一方で、地域の公的医療機関の機能別の統合を行うリストラ策を断行しようとしています。公的病院は地域の拠点病院としての役割を果たしており、機能分化ではなくオールインワンの役割が求められると考えます。

（回答2）
農山村地域を中心に105の病院と60の診療所を持つ厚生連病院について存在意義はもっと認知されるべきです。先進医療と地域の特徴に合わせた地域密着型医療の双方を担う地方の基幹病院であるだけでなく、長野県佐久総合病院のように、集団健診による予防医療、健康改善指導な

（回答3）
コロナの感染拡大を受けて発生した診療控えなどによる赤字の問題も報道されており、減収に対し、災害時と同様に前年度診療報酬支払額を補償することで、地域の医療インフラを維持するためにコロナ後も公的病院には長期にわたる財政支援を行うべきです。コロナ前の緊縮財政の発想に基づいていた公的病院再編・統合を行う地域医療構想は白紙撤回すべきです。また、少子高齢化が進む農山村地域において、産科・小児科は需要が少なく、「不採算」にならざるを得ません。しかし、質問1でもお答えしましたように、総合的な地域医療を確保することは、地域

（回答4）
農業協同組合グループにあると言っても厚生連病院は果たしている機能は過疎地域・僻地の医療インフラの提供という事を考えれば、企業における自己資本比率である固定比率の健全化を達成するために人件費抑制などのサービス低下につながることはありません。その点柔軟な対応が求められると考えますが、詳細については今後も勉強させていただきます。一方、員外利用率規制は公的な役割を果たす病院に対してその規制が合理的であるのかどうかについて考えていく必要があると考えます。これらについて政策として前向きに取り組んでいきたいのでご指導されましたら幸いです。

（回答1）
医療・介護は、住民の暮らしとコミュニティを支える不可欠の基盤であり、地方・へき地における医療・介護従事者の不足は、地域の衰退と人口減少に拍車をかける大きな要因となっています。農村・中山間地域は、食料・水・木材・電力などの供給地であり、その衰退は都市部を含めた国全体を危機に追いやるものです。ご指摘のとおり、コロナ危機は、現在の「都市集中型」の過密社会の脆弱性を、「小さな政府」の名で社会保障などの公的サービスを切り捨てる新自由主義の破綻を、白日のもとにさらしました。また、コロナ危機により、日本では、医療・介護・福祉・保育などのケア労働が、あまりに粗末に扱われてきたこと

（回答2）
農協組合員・住民の健康保持を目的にかかげて160を超える医療機関（病院・診療所）を運営し、農村検診センター、へき地巡回診療車、訪問看護

（回答3）
ご指摘のとおり、人間の命と尊厳を守る医療や介護は、単純なコスト計算で当否が判断されたり、切り捨てられたりするべきものではありません。また、地域住民の命と健康を支える医療機関・介護施設が「不採算」となっていく実態は、今の診療報酬・介護報酬に備があることを示しています。現行の診療報酬には、医薬品や医療機器が高く評価される一方、医療従事者の労働がまともに評価されず、産科や小児科への報酬が低く抑えられているなどの矛盾があります。そのうえ、政府の社会保障費削減路線のもと、診療報酬はこの20年間に、トータルで12%も削減されてきました。高薬価・高額医療機器を是正するとともに、産科・小児科・救急・へき地医療などに係る報酬を増額し、「不採算

（回答4）
ご指摘のとおり、業務の必要上、固定資産の額が大きくなる医療機関・介護事業所に対して「固定比率」の規制には、合理性がありません。病院に自己資本比率の向上」をせ

ど、病気になるにくい地域づくりに取り組み、厚生連による農山村医療が、日本が世界一の長寿国になった基礎を築いてきたとも言えると考えます。新型コロナウイルスの感染拡大期においても、厚生連の医療従事者の皆様に地域の医療崩壊を防いでいただけたことに深く感謝いたします。

（回答3）
コロナの感染拡大を受けて発生した診療控えなどによる赤字の問題も報道されており、減収に対し、災害時と同様に前年度診療報酬支払額を補償することで、地域の医療インフラを維持するためにコロナ後も公的病院には長期にわたる財政支援を行うべきです。コロナ前の緊縮財政の発想に基づいていた公的病院再編・統合を行う地域医療構想は白紙撤回すべきです。また、少子高齢化が進む農山村地域において、産科・小児科は需要が少なく、「不採算」にならざるを得ません。しかし、質問1でもお答えしましたように、総合的な地域医療を確保することは、地域

（回答4）
農業協同組合グループにあると言っても厚生連病院は果たしている機能は過疎地域・僻地の医療インフラの提供という事を考えれば、企業における自己資本比率である固定比率の健全化を達成するために人件費抑制などのサービス低下につながることはありません。その点柔軟な対応が求められると考えますが、詳細については今後も勉強させていただきます。一方、員外利用率規制は公的な役割を果たす病院に対してその規制が合理的であるのかどうかについて考えていく必要があると考えます。これらについて政策として前向きに取り組んでいきたいのでご指導されましたら幸いです。

間地域で、外来・急患対応入院など、住民の命綱の役割を果たしている厚生連病院の実情にまったく合致していません。ご指摘のとおり、一方で、「病院・施設の連携」や「公的病院の役割発揮」を求めながら、他方で、非組合員による厚生連病院の利用に制限をかける、政府の政策は矛盾しています。「員外利用率」規制の厚生連病院への適用も、見直しが必要です。

頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第167回は長野と香川にお願いしました。



長野 和田沙緒理さん

長厚労佐久支部の和田沙緒理さんを紹介しします。職種は臨床検査技師。支部では副執行委員長を担っていただいています。和田さんは歌や音楽が大好きで、支部の音楽部長でもあります。また、長厚労のうたごえ活動を中心となり支えてくれており、和田さんがいなければ活動ができないといってもいいくらいです。コロナ禍でうたごえは現在活動休止中ですが「リモート演奏企画も進行中です」とのこと、完成が楽しみです。コロナ禍だから、人手不足だから、経営が悪いから・・・できない理由を探すのは簡単ですが、そこを諦めずに考えてみよう！と頼りになる和田さんです。今後の活躍も期待しています。

ちなみに、全厚労ニュースのクロスワードパズルのファンで、毎回の応募は欠かさないのでそうです(笑)



香川 廣瀬真由美さん

今回香厚労から紹介する人はこの方、全厚労女性委員として活動してもらっている廣瀬真由美さんです。

滝宮総合病院で理学療法士として日々の業務ならびに組合活動を頑張ってもらっています。廣瀬さんを言葉で表すと『安心、安全、安定なAAAな女性』です！そして企画事になると効率よく計画を立案してくれます。そんな廣瀬さんの趣味は山登りやキャンプ、もちろんBBQといったアウトドアだとか！全厚労女性委員として活動してもらっているので、今後お会いすることもあると思いますが、少々シャイなところがあるかもしれません。そんな時はみんなでワイワイしてあげて下さい。そんな雰囲気の中でのいるのが好きな女性なので、それで仲良くなれます。ただ、もの凄く喋りやすい人です！廣瀬さんについて語り出すとキリがないので、これにて紹介終わります。

読者の声

今年小学生になった長男。親が参加できない宿題の多さにびびっています…。自分が小学生の頃もそうだったのかなーと同級生の夫と思い出話をしました。コロナでこれも連れて行ってあげられず、初めての夏休みを楽しめたのか申し訳ないです。(福島)

一面の地元の自慢：楽しそうなお祭りやイベントがなくなってきて寂しくなりました。まだまだ、コロナの収束には時間が掛かりそうですが気持ちも身体も前向きに出掛けましょう。(OG)

全厚労のオンライン平和ツアーに参加しました。平和記念公園と資料館へは以前、数回訪れたことがありましたが、今回初めて知る像や碑なども紹介していただき勉強になりました。原水禁世界大会へもいつか参加し、平和を願う世界中の皆さんの熱気にふれてみたいですね。(長野)

に楽しいことを探しながら過ごしたい。地元が近いだけで心の距離が縮む。あたしの地元？田んぼがあるわ。内緒よ。(HT)

懐かしい？全厚労の役員(委員)やってくれてくれたのかな？こんな状況でも、色んな楽しいことが出来るのが組合じゃないかと思えます。(MT)

二重の紙面を見るとみんなマスクであること異様さを感じて、コロナウイルスの恐怖を感じます。コロナ禍なので今までの活動を中止させないよう知恵を出していろんな形に継続して頑張るんですね。ありがとうございます。懐かしいです。なるほどと思えました。今後応援させていただきます！

催はもっと良いと思います。早くリアル参加できるようにしたいな！参加者増やすためにオンライン併用もいいかも。(KU)

まずは見積りで比べて

医労連共済の自動車共済は2021年10月～2022年9月の団体割引率が17.5%(今年9月まで15%)になりました。同じ車種でも、年式・グレードで保険料は変わりますので、まずはみんなで見積もりし、他社の保険料と比べてみてください。

☆HPをリニューアルしました☆
右のQRコードから全厚労ホームページを開き、過去の全厚労ニュースを見る事が出来ます。



読者の声、聞かせて・教えて、クロスワードはすべてQRコードよりスマホから投稿できます。氏名・住所・希望景品(図書カード又はクオカード)は必須事項です。

教宣部の つぶやき

五輪開催の是非は別に、一流選手の手は流石に、たえがなかった。「すげーなあ」と率直に思えるのは、「謙虚にやるべきことを続けてきた努力が見えるから」だろうか。ため息をついて自らの行いを振り返る。上から視線が時々顔を出す私は善にも棒にも掛からぬ。謙虚に、謙虚に。M書記長のように。(HT)

ザクロスワード

出題▶モロズミ勝

【問題】二重ワクの文字を、A～Fの順に並べてできる言葉は、なに？

- ヨコのカギ
- 1 食べ放題、セルフサービスです
- 5 福が来るのは笑う……
- 7 これが豊富な人は物知りです
- 8 沖縄伝統料理イラブー汁の材料は……
- 10 非常に遠いこと
- 12 仏ボルドー産が有名
- 13 容疑者。……を挙げる
- 14 自分が生まれた国
- 16 秋の味覚の代表格
- 17 白頭……は米国の国鳥
- 18 取引などの手数料
- 20 病気やけがを治します
- 22 切羽詰まった場面
- 24 今夏、何回食べた？
- 26 菊花賞などの主役です
- 27 順位のこと

- 25 本数や色で変わります
- 23 たんすやいすなど
- 21 紙2枚に割って押す印物の上部を指すことも
- 19 尾花とも言う秋の七草花言葉は「愛」。でも
- 17 本指は抗議の……
- 16 ミヤンマーの人々の3音を捉えるための気管
- 15 レーズンパンには欠か
- 13 マツタケ料理の一つ
- 11 人の心を引きつけ、感
- 9 硬貨や紙幣
- 6 ……然、……発
- 5 たたいて渡す？
- 4 フアンドとも言います
- 3 ……然、……発
- 2 マツタケ料理の一つ
- 1 三味線を鳴らします